

# いわき市議会発足50周年記念誌の発行によせて



■いわき市議会議長

菅波 健

Takeshi Suganami

いわき市議会発足から50周年の記念すべき年に、「いわき市議会発足50周年記念誌の発行」を発刊できますことは、誠に喜ばしい限りであります。

いわき市は、昭和41年10月、広域多核都市として、14市町村が合併し、日本一広い面積を持つ市として誕生し、同時に市議会も発足したところであります。

当時の市議会は、14市町村議会の議員をもって構成され、議員数333人というマンモス議会が誕生し、全国的にも注目されてきたところです。

50年の歳月を経て、現在では議員定数37人と当時の9分の1となっております。

この間、多くの先輩議員が、それぞれの地域性を尊重し、全国でも例を見ない広域多核都市をひとつにまとめ、本市の飛躍・発展のため、市当局の施策に対しさまざまな提言を行うなど、適時適切な議会運営に努めて参りました。特に、広域な本市には欠かせない道路網の整備、工業団地の整備に伴う企業誘致、市民の生活に密着した市立病院や環境問題、行財政改革などに関しては、特別委員

会を設置し、課題の解決に向け心血を注いできたところでです。

また、平成23年3月に発生しました東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により、本市も甚大な被害を受けましたが、早期復旧と着実な復興に向け、市議会といたしましても、東日本大震災復興特別委員会を設置し対応にあたるとともに、国県等に対する要望活動を行うなど、議会としての責務を果たすべく全力で取り組んで参りました。

引き続き、本市の明るい未来に向け、市民の負託にこたえるべく努力して参る所存であります。

今回の記念誌は、今日のいわき市を築いてきた先輩議員の皆様の足跡と半世紀の議会活動の記録を保存するため発刊するものでありますが、市民の皆様にも、今後の議会活動に対し御理解いただくとともに、本市の将来を考えるきっかけともなれば幸いです。結びに、これまで市政発展に御尽力いただきました皆様に、心から感謝と敬意を表する次第であります。

また、本誌の発刊にあたり御協力賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。



## 発刊のお祝い

いわき市議会の発足から50周年の大きな節目を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

この記念すべき年に、これまでの歴史を振り返る記念誌が発刊されますことは、市民の皆様が議会に対する理解を深め、関心を高めるうえで、誠に意義深いものであると考えております。

いわき市は昭和41年10月1日に、5市4町5村が大同合併して誕生し、本年、いわき市議会と同じく市制施行50周年の節目を迎えました。

今日までの歲月には、炭鉱の閉山、北洋サケ・マス漁業からの撤退、景気の低迷による地域経済への影響など、幾多の試練に直面しましたが、多くの市民の皆様によるたゆまぬ努力と英知によって難局を乗り越え、高速交通体系の確立や重要港湾小名浜港の整備、中核市への移行など、都市基盤の拡充・発展が図られ、南東北の拠点都市として着実な伸展を見るに至っております。

この間、歴代の市議会議員の皆様には、市民の皆様のご期待と信頼を一身に受け、

■いわき市長

清水 敏男

Toshiro Shimizu

常に市民の目線で市民の立場に立ちながら、本市の発展に御尽力いただきましたことに、改めまして、深く敬意と感謝の意を表します。

平成23年3月に発生した東日本大震災は本市にも深い爪跡を残しましたが、国内外からの多くの支援にも支えられ、本年までに生活再建の基盤は着実に整いつつあり、今後、市は、復興の総仕上げと、復興の先を見据えた地方創生の取り組みを進めて参ります。

そして、これまで先人が歩んできた歴史をしっかりと受け継ぎ、市議会議員の皆様をはじめ、市民の皆様と手を携えながら、更なる50年にむけて、だれもが「住んでよかった。住み続けたい」と思える魅力にあふれた「明るく元気ないわき市」の創造を目指したまちづくりに全力を注いでいく所存ですので、皆様方の暖かい御支援、御鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、いわき市議会のさらなる御発展と市議会議員の皆様をはじめ関係各位の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、お祝いのごことばといたします。